

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 192

2006年

9 ~ 10月号

## 行 事 案 内

### 9月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 9月10日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 秋の渡りの季節です。帰ってくるカモ達との再会が楽しみです。そして、思いがけない鳥との出会いがあるかもしれません。注意して観察しましょう。  
解 散 正午頃  
担 当 佐々木 飯島 北原、桑森 小林(寿)、野口(紀)、松田

### 10月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 10月8日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 そろそろカモ達が帰ってきています。そして、この時期ならではのエクリップも多いはず。じっくりと観察し、水鳥の識別を楽しみましょう。  
解 散 正午頃  
担 当 松田、飯島、北原、桑森、小林(寿)、佐々木、野口(紀)

### 手 賀 沼 ク リ ー ン 作 戦

期 日 10月8日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午後1時30分

案 内 手賀沼周辺のごみを集めます。清掃場所は柏市沼南側の探鳥ポイントを中心に行います。環境保全のためです。多数の参加者を希望しています。終了は午後3時ごろを予定しています。(軍手、ゴミ袋は事務局で用意いたします。火ばさみのある方はお持ちください。)

担 当 事務局

### 第6回 ジャパンバードフェスティバル

今年も我孫子市でジャパンバードフェスティバル(JBF)が開催されます。

期 日 11月3日(金)、4日(土)

会 場 親水広場、手賀沼公園

案 内

当会の展示内容については以下のようになります。なお、当会のブース出展は手賀沼公園です。

手賀沼公園会場：パネル展示、紙芝居、庭に鳥を呼ぶ、エサ台の販売

親水広場会場：噴水前定点バードウォッチング、船上バードウォッチング

また、学生、NPO 団体、光学器械関係も手賀沼公園の予定です。他のイベントについては、広報あびこの10月16日号もしくは11月1日号をご覧ください。

担 当 幹事全員と会員

皆様のご協力をお願いします。

# 行 事 報 告

## 6 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2006年6月11日 9:00集合  
雨天により中止

手賀沼探鳥会を開催予定でしたが、前夜からの雨が降り続き、朝には止む気配もありましたが、終日雨となりました。当日は、30名以上の皆さんが集合されましたが、担当幹事で協議した結果、残念ながら探鳥会を中止することとしました。

連絡事項等を終えた後、北新田でコイカルが出現しているとの情報もあり、有志数名で北新田越流堤付近を探鳥しました。コイカルは出ませんが、カッコウ、ホトトギスの声が河川敷で聞かれ、オオヨシキリの元気な囀りやコチドリが飛び交うのを観察できました。集合された皆さん、お疲れ様でした。(担当 桑森亮)

<カウント班> 飯泉仁、飯泉久美子

調査日時 2006年6月4日 13:10~15:30  
晴れ、気温 22

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	0	4	4
カワウ	22	72	94
ゴイサギ	0	2	2
アマサギ	0	7	7
ダイサギ	0	5	5
コサギ	0	1	1
アオサギ	2	3	5
マガモ	0	3	3
カルガモ	5	7	12
オオバン	1	5	6
合計	30	109	139

## 7 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2006年7月9日 9:00~11:30  
雨のち曇り、気温 26

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、キジ、オオバン、コアジサシ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 29種

<探鳥班> 諏訪哲夫、村瀬和則、桑森亮、川村美智子、川村美恵子、松本勝英、田中功、佐々木隆、松田幸保、間野吉幸、小玉文夫、島崎純造、宮下三禮、中野久夫、谷山晴男、榎本右、木村稔、川田光男、六角昭男、猪爪敏夫、大久保陸夫、小林秀美、柴本法子、長谷川行廣、一番ヶ瀬国彦、染谷迪夫、田丸喜昭、小池勉、鈴木静治、北原建郎、西巻実、野口紀恵(担当 小林(寿)、野口(紀)) 参加者 34名

<カウント班> 飯泉仁、飯泉久美子

調査日時 2006年7月9日 9:15~11:20  
雨のち曇り、気温 25

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	5	3	8
カワウ	15	28	43
アマサギ	0	9	9
ダイサギ	3	0	3
コサギ	0	9	9
アオサギ	2	1	3
コブハクチョウ	0	9	9
カルガモ	3	7	10
オオバン	5	1	6
コアジサシ	1	67	68
合計	34	134	168

---

---

## 裏磐梯探鳥会

6月3、4日

---

---

### オオルリの碧さに感激

松本 勝英

朝寝坊の私にとって久しぶりの早起きで、午前8時の集合地（我孫子駅）に向かいました。少し余裕をみていたけど、すでに殆どの顔がそろっており間もなく出発。

経路予定をちょっと変え、谷和原ICから常磐高速に入り一路北上する。車窓から田植えの終えた水田の緑が眩しい。ダイサギが点在し見送りを受けた。重くなるからとの不真面目な理由でカメラを置いて来てしまった反省を心中に、諸先輩のデジカメ操作のノウハウに耳を傾けるうち、少し早め（11:40）の磐越道SAで昼食。

本線走行とほぼ同時に始めた、芋焼酎のミニケーションの酔いでウトウトしていたら、桧原湖畔の探鳥出発地点に到着。

バスと別れ、いよいよ探勝路へ入る。裏磐梯はまだ新緑の真ただ中、全ての樹木や路傍の野草が春を謳歌している。歩き始めて間もなくなんと幸運にもオオルリと遭遇、その碧さに驚き、感激した。

湖岸沿いの比較的平坦な林道を進む。春ゼミがしきりに鳴いている。それに圧倒されてか鳥たちの声は聞こえないし気配もない。多少アップダウンになりゼミの声が途絶えた頃、シジュウカラやホオジロに続いて、虫の幼虫をくわえたキビタキを発見！道からちょっと外れた薄暗い藪の小枝に喉の黄色が鮮やかだった。

それからは木陰のカワラヒワ、アオジ、ウグイス、シジュウカラの大合唱あり、アオゲラ（アカ？）のドラミングあり、コゲラの威嚇声あり、またまたオオルリのツートンカラーあり、気分爽快、足取りも軽くなる。中瀬沼の展望台から、これぞ裏磐梯という勇姿を眺望。約120年前の噴火を赤茶けた岩肌が物語っていた。

遠く悠々とトビやアオサギが飛翔し、中島（中瀬沼の）の松の木には、8~10羽のカワウが羽を休めていた。道は下り坂になり、諸先輩を追う。一羽のアオジが目止まった。

20m程の正面の小枝でジッとポーズをとってくれた。絶好のポジションである。黒く染まった過眼線や胸から腹にかけての横線が映えていた。

16:40、予定の休暇村「裏磐梯」に到着。地ビールで乾杯。バイキング式夕食もそこで夜の探鳥会に行く。闇が濃くなるに従って、木星や北極星が顔を出すが、肝心なフクロウもヨタカも声すらない。オオジシギが3~4羽周辺の草むらから慰めてくれた。

明朝4時からの探鳥会に備え、熊出没の警告もあり早々に宿に引き上げ……そのまま夜の宴会に合流してしまった。

山はまだ暗く冷やかな外気の中、ホトトギスの澄んだ声が遠く聞こえ目覚めた。その後、時計の針が午前3時半、カッコウも鳴いたので起床。桧原湖対岸の野鳥の森へバスで移動する。湖上には朝霧が2つ3つ、静寂そのものだ。

桧原大橋付近からコースに入る。キセキレイが頭上を行き来する。振り返ると早くもキビタキのお出迎えときた。カメラを向ける諸先輩に対し黄色の眉班や翼の白斑を誇示し、盛んに縄張りを主張している。数年前見たという、アカショウビン出現ポイントは当然空振りだったが、期待は膨らむ。

ブナの原生山の山道を登ること30分位でやっと中腹だ。樹種はミズナラ等もまざり頭上を包み込んでいる。コマドリ、ヤマガラ、コルリ、ツツドリ……絶え間なく、さえざり続けてくれる。まるでそれぞれ持っている知性を全て吐き出しているようだ。（でも、葉陰に紛れて一向に姿は捕らえられない。）中でもコルリの一段と高い声は群を抜いていた。アカショウビンは断念し、きた道を下る際、ミソサザイの遅い挨拶を受けた。

出発点に戻ると、先程出迎えてくれたキビタキがまたも別れを惜しみさえざり、後ろ髪をひかれながらバスに再乗した。宿舎で朝食をたら腹済ませ、幹事の配慮もあり、急きょアカショウビンを求めて雄国沼に向かう。山道3.3kmは幾筋かの小さな沢が横切り、カエルの声がむなしく響く。ポイントに不足はないが、やはり幻の鳥だ。センダイムシクイ、ゴジュウカラが収穫だった。昼過ぎバスが合流。五色沼経由で楽しく二日酔いの旅を終えた。

## 【担当幹事報告】

探鳥場所 裏磐梯周辺：桧原湖探勝路、桧原湖野鳥の森、休暇村裏磐梯付近、雄国沼ハイキングコース、中瀬沼付近など

今回の探鳥会は 2 日間とも天候に恵まれ少し寒かったが、探鳥日和といえた。残念ながらお目当てのアカショウビンには会えなかったが、参加者は全員楽しそうに見えた。バスの中でも楽しい会話が交わされ、話は尽きなかった。アカショウビンは次の機会までお預け！（宿泊：休暇村「裏磐梯」費用：22.000 円）

<参加者> 間野吉幸、中野久夫、諏訪哲夫、西巻実、鈴木静治、野口幸子、小林寿美子、大久保陸夫、佐々木隆、猪爪敏夫、田中功、山住良子、松本勝英、伊藤貴子、吉田隆行、（担当幹事）桑森亮、染谷迪夫、北原建郎 計 18 名

<認めた鳥> カワウ、アマサギ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、キジ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、アカゲラ、コゲラ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、コマドリ、コルリ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、オオヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、ノジコ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 47 種

---

## 笹川・小見川探鳥会

6月25日

---

### よっ！お久しぶり

首藤美恵子

この日は朝からどんよりとしたはつきりとしなない梅雨時特有のお天気、午後には雨になりそうである。久しぶりの笹川・小見川探鳥会に参加した。

最初の休憩地点笹川駅近くの諏訪神社に着く。ここでは駐車場の横の食堂の軒下にツバメが営巣していた。まだ子ツバメが孵っている様子は無く母ツバメが一羽

我々を見下ろしている。

ここから移動いよいよ黒部川の川べりに出る。土手の上にスコープを構え下の河川敷を見つめる。すぐにテケテケテケ……と鳴きながら弧を描き飛翔するオオセッカが現れる。図鑑によるとジュクジュクと囀り飛翔するとあるが、私はどうしてもあのエレキギターの音を連想する。その後目立ちたがり屋のコジュリンがいつも同じ杭に立ちホオジロの鳴き声を短くしたようなさえずりを披露する。写真にするにはお立ち台をもう少し絵になるものに変えて欲しいと思うが我俣でしょうか。

ここではオオヨシキリが少ないように感ずるが、オオヨシキリとコヨシキリを比べ口の中の色を観察する。確かに前者の口の中は赤もしくはオレンジであり、後者のそれはレモンイエローである。鳴き声は前者が厚かましく大声で叫ぶのに後者は少し控えめにさえずる。

珍しいはずのこれらの鳥に見飽きたころ我々の眼の前をハジロクロハラアジサシが通過した。ホンの一瞬の出来事であり、皆で図鑑を見ながらこの名前が出てきた。アンコールを叫びたいが下流に向かって飛び去ってしまった。多分アジサシの仲間が混ざっていたように思う。

ここから小見川に移動する。堤の上では少し距離があるため下の河川敷を歩くが葦の高さが高く遠方まで見透かすことが出来ず苦労をした。

その後、最後の浮島に移る。浮島も河川敷の中に道がありここを歩く。ここでは鳥より足元の花に目を奪われる。ネジバナ（モジズリ）の多さに驚く。ネジバナと言いながらまったく捻じれていないものもあり又色の変化の多さにも感心した。やはりなんと言ってもラン科である。雨になりそうなので幹事さんの的確な判断で早めに切り上げ帰宅することになった。

## 【担当幹事報告】

日時 2006年 6月25日 8:00~15:00  
曇り・風弱 気温 25

<参加者> 田丸喜昭、メリールイス、諏訪哲夫、西巻実、北原建郎、桑森亮、中野久夫、木村稔、井上正、大久保陸夫、小玉文夫、松田幸保、山本貞江、染谷迪夫、猪爪敏夫、首藤佑吉、首藤美恵子、宮下三禮

(担当幹事) 飯島博、間野吉幸 計 20 名  
<認めた鳥> カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、チョウゲンボウ、キジ、コチドリ、ハジロクロハラアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、オオセッカ、コヨシキリ、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、コジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガハシボソガラス、ハシブトガラス  
計 32 種

---

---

## 日光白根・霧降高原探鳥会

7月16、17日

---

---

### ゆったり温泉入浴と雨中の森林浴

島崎純造

強い陽射しと 35 の猛暑が 2 日続いたが、今日はどんよりした梅雨空で雲行きがあやしい。下見の結果、霧降高原は適当な探鳥ポイントがないので最初の行先が奥日光の光徳牧場に変更になった。

取手から宇都宮へバスは快適に走ったが途中から雨模様になった。昼過ぎ光徳牧場に着いた時は幸い小雨で、傘を差さずに歩ける状態だったが、下草のササが濡れているので車道をを散策してみたが、当然ながら鳥は少ない。しかし、ミズナラの樹林帯は大木が多く、濃い緑の葉を広げて空気はひんやりし気持ちがいい。風がないので助かった。ウグイス、キビタキがさえずり、駐車場付近ではアカゲラが梢に姿を見せた。

そろそろ引き上げようかという時、道端の雑木の枝で親を待つコゲラの幼鳥を発見、しばらくみているうちに近くにゴジュウカラがきた。そしてコガラ、コサメビタキの幼鳥など小鳥が飛び交ったが動きが早いのでよく分からない。キバシリもいたらしい。

金精峠(トンネル)越えて日光白根山の麓、丸沼高原(群馬県片品村)へ向った。丸沼入

口の旅館では軒先にイワツバメがとっくり型の巣をかけ、親鳥が出入りしていたほか、広場ではキセキレイ、ヒガラ、コガラなどが見られた。形のよいタモヤカツラの高木が亭亭と枝を伸ばしみごとなたたずまいであった。湖面は風もなく静かで、釣り人が立ち込んでいたがあまり深くないとのこと。大きなマス?が釣れていた。

今夜泊まる「シャレー丸沼」は高原のロッジで、眼前のスキー場内の源泉から引いた「座禅温泉」が売り物、さっそく飛び込んだが Na, Ca を含む硫酸塩温泉で無色無臭透明、適温の湯でゆっくり楽しめた。露天風呂も快適だった。

梅雨前線は北関東までのびて停滞し、一晩中激しい雨音がしていた。それでも朝食前の早朝探鳥に 10 人が出かけ、雨についてゲレンデを歩く姿が見えた。

朝食後、予定どおりロープウェイで山に登ることになった。山麓駅は標高 1.450m、山頂駅は 2,000m であり、全長 2,500m のロープウェイは標高差 600m を一気に上がる。かなり急な斜面である。晴れていればすばらしいだろうが、如何せん展望は全くなし。山頂駅の周辺はロックガーデンになっており、高山植物が植えられていた。シラネアオイは花期が過ぎていたが 2 万株というコマクサは見ごろ、白花もあった。

雨のなか、自然散策コース 1.7 km を歩く。オオシラビソの樹林帯は濡れて滑りやすいしアップダウンもあって楽ではない。途中メボソムシクイの朗らかなさえずりを聞いたのが救いだった。雨が降りしき中、うろろしても仕方ないので 11 時には下山して帰路に着くことになった。

帰りは国道 210 号(ロマンチック街道)を沼田へ、関越道経由で午後 4 時には我孫子に着いた。皆さんお疲れさまでした。幹事さんありがとうございました。

[ 晴れていたら見えたはずの百名山 ]  
日光白根山(2578m): 日光火山群の主峰、活火山、丸沼は噴火によるせき止め湖  
浅間山(2568m)、四阿山(2333m)、草津白根山(2165m)、武尊山(2158m)、谷川岳(1977m)、至仏山(2228m)、燧ヶ岳(2346m)

[ 日光白根山の花ごよみ ]  
(6月) コメバツガザクラ、シラネアオイ、

サンカヨウ、イワカガミ  
(7月)カニコウモリ、ワタスゲ、ゴゼンタチバナ、ハクサンチドリ、ハクサンシャクナゲ、シラネニンジン、ツガザクラ、ハクサンフウロ、ヒメシャジン、コマクサ、ヤマオダマキ  
(8月)ダイヤモンドソウ、トリカブト、トウヤクリンドウ、シラネアザミ、ハンゴンソウ

#### 【担当幹事報告】

<認めた鳥>カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、トビ、チョウゲンボウ、キジバト、ホトトギス、ジュウイチ、アマツバメ、キバシリ、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ルリビタキ、ウグイス、メボソムシクイ、キクイタダキ、キビタキ、コサメビタキ、エナガ、コガラ、ヒガラ、シジウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 39種  
<参加者>北原建郎、大久保陸夫、宮下三禮、諏訪哲夫、西巻実、吉田隆行、間野吉幸、中野久夫、鈴木静治、染谷迪夫、島崎純造、首藤美恵子、井上正、佐々木隆、松本勝英  
(担当幹事)松田幸保、小玉文夫 計 17名

---

---

### 映 写 会

7月22日

---

---

担当幹事 諏訪哲夫

今年も水の館3階研修室で開催した。12名の方から453点(昨年328点)のデジタル写真の発表、松田さんからビデオの発表があった。昨年は時間が足りなかったが今年は皆さんの協力により時間内に映写を終えることができた。参加者は20名で昨年より少なかったので来年は事前のPRに努めたい。今年のデジタル写真はオーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、アラスカと国際色が豊かであった。国内も北海道、沖縄本島、宮古島など活動範囲が広がった。飛翔写真も多くなり、力作が多かった。年々発表者の腕が上がってきて内容のある映写会になってきているように感じた。

<発表者と発表点数>

井上 正:オジロビタキ、カヤクグリ、ハヤブサ等 40点  
吉田隆行:ハチジョウツグミ、エリマキシギ、ホシガラス等 40点  
桑森 亮:ゴイサギ、オオルリ、タマシギ等 38点  
首藤恵美子:アカショウビン、サンコウチヨウ、ノボタン等 25点  
西巻 実:オオヨシキリ、ヨシゴイ、サンカノゴイ等 40点  
川上 貢:オジロワシ、オオワシ、ヤツガシラ等 45点  
村上 稔:キョクアジサシ、ポナパルトカモメ、ツノメドリ等 39点  
大久保陸夫:オガワコマドリ、キビタキ、コマドリ等 40点  
中野久夫:コオリガモ、ムナグロ、オオハシシギ等 40点  
田中 功:ノゴマ、チシマフウロ、リシリヒナゲシ等 42点  
野口隆也:オシドリ、アオバト、イソヒヨドリ等 26点  
諏訪哲夫:ノビタキ、ミソサザイ、ルリビタキ等 38点  
松田幸保:ビデオ(伊豆沼のマガン)  
<参加者>桑森亮、中野久夫、首藤佑吉、首藤美恵子、川上貢、野口隆也、大久保陸夫、西巻実、吉田隆行、井上正、小林秀美、北原建郎、川田光男、谷山晴男、間野吉幸、松田幸保、田中功、佐々木隆、村上稔、諏訪哲夫 参加者 20名

---

---

### ホタルの夕べ

7月30日

---

---

担当幹事 桑森亮、木村稔

毎年恒例の岡発戸谷津田でのホタル狩りです。前日からお天気が不安定で実施が危ぶまれましたが、当日は何とか天気もち、それほど暑くなく快適な夜となりました。

懐中電灯を頼りに漆黒の谷津田に入ると、なかなかホタルは現れません。水辺や湿田に続く道の入り口付近で全員集合。幹事の木村さんからホタルのお話を聴きます。世界の

ホテルから日本のホテル、ホテルの光る理由など。ヘイケボタルは小さく静かな水辺に、ゲンジボタルは大きく流れのある川辺に生息するとのこと。従って、ここ谷津のホテルはヘイケボタルになります。

斜面林の裾路に沿って暗闇を進むと水辺に着き、目を凝らすとチラホラと仄かな光が確認でき、小さな歓声が。さらにアカガエルの里付近まで歩くと、数は多くはありませんがボタルがゆれ動き、直ぐ目の前でも観察できます。

昨年は21匹強でしたが、今年は30匹のヘイケボタルが出現し、真夏の一夜を幻想の世界に誘い、私たちを楽しませてくれました。参加者の中には、30年ぶりにボタルを見れたと感激の方もいらっしゃいました。

私たちの身近な環境で自然を回復させ、来年も沢山のボタルと出会えることを期待しましょう。

<参加者> 及川徹・真智子・裕美子・航太郎、神部充・まなみ・いずみ・ほなみ・このみ、池田妙子、染谷迪夫、川上貢、中野久夫、松本勝英、佐々木隆、戸塚道、村山きみ、井上正、野口隆也、山田哲生、一番ヶ瀬国彦、田中功、木村稔、桑森亮 他1名 計25名

## 納涼会

7月22日

担当幹事 北原建郎、染谷迪夫  
映写会で皆さんの貴重な作品を見たあとの納涼会。今年は26名が「養老の滝」に集まりました。外のじめじめした梅雨空と違って、会場の中は元気一杯。定刻前に一回目の乾杯が始まり、一気に盛り上がっていきました。酒の量も年々少なくなっていくのかと思っていましたが、飲み放題の元以上をとる勢いです。日頃じっくり話ができない方々も、この日はお互い膝を交えて鳥談義に花を咲かせました。

<参加者> 諏訪哲夫、猪爪敏夫、井上正、中野久夫、田丸喜昭、西巻実、谷山春男、松田幸保、大久保陸夫、川田光男、吉田隆行、小玉文夫、桑森亮、六角昭男、松本勝英、間野吉幸、田中功、鈴木静治、木村稔、榎本右、

佐々木隆、首藤祐吉、野口隆也、村上稔、染谷迪夫、北原建郎 計26名

## 7月幹事会報告

事務局(染谷迪夫)

日時 7月9日(日) 13:30~16:00  
場所 我孫子市民会館 第2会議室  
議題

1. JBFの参加内容と担当について
2. 会報192号の記載記事について
3. 検討及び報告事項  
上四半期予算報告  
JBF実行委員会経過報告  
手賀沼流域フォーラム実行委員会報告と参加検討  
「水の館」における鳥類にかんする展示について  
市民活動フェアINあびこ2007参加について  
市民サポートセンターについて  
ピオトープの注文書  
手賀沼学会出展について  
(仮称)手賀沼文化拠点整備計画
4. その他

## 山階鳥研より

### 第16回鳥学講座開催の案内

#### 「電子の地図で鳥類の生息環境を調べる

- 鳥に住みよい環境は? -

講師: 百瀬浩(ももせ・ひろし) 中央農業総合研究センター鳥獣害研究サブチーム長

日時: 平成18年11月3日(金)13:00~15:00

場所: アビスタ ホール(定員150名)

参加費: 無料(申し込み不要)

問い合わせ: 山階鳥研 広報室 04-7182-1101

「年に1度開催する鳥学講座では、第一線で活躍する研究者に、研究の最前線を紹介していただきます。今回は、地理情報システム(GIS)という技術を使って鳥の生息環境を調べる研究について、中央農業総合研究センターの百瀬浩さんにお話しいただきます。」

## 落 雁

西巻 実

7月22日の映写会で松田さんがビデオで撮ったマガンの着水の様子を映写されました。伊豆沼の近くの蕪栗沼で2004年12月に撮影されたものです。夕刻になるとマガンは埒になる沼に帰ってきます。沼に近づくと木の葉を落とすように、ひらひらと左右に垂直旋回を繰り返し、プレーキを掛けながら降下し着水します。この様子を当会では「落雁」と呼んでいます。

「落雁」が当会で一般的になったのは04年10月に伊良湖探鳥会の夜の飲み会兼座談会のとき私が主として言い出し、その後の12月に博物館友の会のデジカメ同好会の撮影会が伊豆沼・蕪栗沼で行われ、松田さんの撮影になりました。

「落雁」と聞けば普通の方はお菓子の「らくがん」を思いだしますが、これは多分、近江八景の中の「堅田の落雁」との関連でその名が付いたと思います。浮世絵の「堅田の落雁」(註1)は広重が描いていますが、浮御堂を前景にバックの琵琶湖に一直線に並んだ雁が頭を下に急降下している様子が描かれています。こんなマガンの編隊での急降下は見たことがありません。これを見た私は広重はマガンを見ていないと思いました。会員の日本画をよくする中尾葉子さんにこのことを聞きましたら、「広重は見えていないのでなく、様式化したのだと思う」とご返事ありました。(言葉が違うかもしれませんが、文責西巻)

そうすると近江八景のお手本の中国の瀟湘八景のなかの「平沙落雁」が問題になります。大分時間をかけてパソコンの検索で探しました。ありました。700年以上昔の中国の僧侶画家・牧谿の描いた水墨画が出光美術館にあります(註2)。それによりますと掛け軸を横にしたような横長の絵で、近景と遠景は省略され、右半分は葦原のような草地で小さく雁が4羽左向きに描かれ、帰ってくる仲間を迎えるような図です。左半分は近くの山が左端に描かれ竿になり鍵になりして編隊で近づく雁の様子が描かれています。けっして急降下ではありません。

平沙落雁は絵を見ると帰雁(註3)のように見え、中国語の落雁は帰雁の意味ではないかと思いましたが、このへんは分かりません。中国にはたくさんの「平沙落雁」があるはずで、この一枚だけでは分かりません。広重は江戸時代ですからマガンは普通の鳥で、江戸湾や各所にいたはずで、多分見ていると思います。しかし「落雁」にこだわり、浮世絵の様式には急降下で表現したのだと思います。インターネットで見る現代の中国人の絵も「平沙落雁」は急降下ではありません。

以上のように「落雁」の意味は私たちの思うような木の葉を散らすようなダイナミックな物ではなく、普通の帰雁を意味するようです。

ここから提案ですが、せっかく当会にダイナミックな「落雁」が根付いたのですから、しかもこの性質はマガンの特質の一つと思われますから、このまま「落雁」を使うことにして、以上のいきさつは承知した上でダイナミックの「落雁」を楽しみたいと思います。みなさんいかがでしょうか？

註1 <http://www.shiga-irc.go.jp/shiga/hakkei/u-katata.html>

註2 <http://www.linkclub.or.jp/~qingxia/cpaint/song/muqiping.jpg>絵の上でクリックすると拡大マークがでる。

註3 榎本さんから雁の北帰行の季語である、とのご注意がありました。

以上



## 里美牧場での探鳥会

2006. 5. 20-21.

田丸 喜昭

過ぎた冬には、水辺や山野の鳥の種類と数が少なく、残念な季節となり、ゴールデンウィーク前からは、天候が思わしくなく、今年はここまで探鳥に足を延ばす機会が例年に比べ少なかった。

日本野鳥の会茨城支部は、5月20日(土) - 21日(日)に、福島県と境を接する旧里美村(現常陸太田市)の里美牧場での一泊探鳥会を開催する案内があったので、参加申し込みをした。メリールイスは、5月23日までアメリカに滞在しているので、私一人での参加となる。

20日朝7時前に家を出て、国道6号線を千代田石岡ICまで北上し、そこから常磐自動車道を日立北ICまで走り、国道6号線に出る計画だったが、インター出口の表示がわかりにくく、県道10号線に入り、常磐線十王駅付近で道に迷ってしまったが、何とか目指していた国道461号線までたどり着いた。およそ5kmほど国道の山道を上りながら走ると、9時過ぎに花貫ダムに出た。ここで以前開催された茨城支部探鳥会に参加したことがある。ダムのそばの駐車場に車をとめて、歩いてみたが、霧が立ちこめて、この時期としては、鳥の活動が見受けられず、鳴き声もセンダイムシクイを除きあまり聞こえてこない。車に戻り、国道をさらに進み、次の集落から昔の国道だった旧道へ入り、花貫川に沿って上り続ける。前の探鳥会では、この道を歩いて鳥を探し、キビタキやオオルリなどの多くの鳥たちとの出会いがあったが、天候が悪いこの日は、車の窓を開けてゆっくり進んだが、めぼしい鳥との出会いはなく、キャンプ場があるやや開けた場所に着いた。川がすぐそばを流れ、新緑がさえるので、天候さえよければ、鳥たちも活発であるはずだが、この日は気温も低くまことに静かなものだった。車をとめて、周囲を1kmほど歩いたが、成果が上がらないので、移動することにした。

国道に戻り、西へさらに進み、県道227号線へと右折する。思ったとおり林道のように道幅は狭く、そこから先での運転の難しさを感じたが、しばらく進むと、道幅は広がり、交通量もほとんどなく、雨が降ったりやんだりし、窓を少し開けて走ったが、鳥との出会いの期待はかなわなかった。3kmほど進み、県道245号線へ左折する。この道は、まさに林道で、往復一車線で山間部を曲がりくねりながら進むが、対向車がほとんど来ないので、比較的気楽に運転できた。山奥で、せせらぎがあったり、やや開けた場所があったりしたが、道幅が狭く、駐車できないのでゆっくりと進む。途中でミソサザイのトレモロとコルリの声を聞く。山の鞍部に出て、坂を下り始める。やがて里美牧場と今夜宿泊予定の「プラトーさとみ」の看板があり、それに従い右折して、山道を登る。この頃から天気が回復気味になり、気温も上がってきた。宿近くまで上ってくると、右側の開けた場所でアカハラのキョロンキョロンという声を聞いたので、車を降りてみると、下の方の藪の中でさえ姿が見えた。山の天候は変わりやすく、霧が深くなってきた。宿近くで、第一駐車場の看板を見、第二も見、その先で第三駐車場を見たが、そのまま進んでいくと道は下る一方になったので、引き返す。第二のそばに人がいたので、プラトーの場所を聞くと、すぐそばを右折した場所にあるというが、宿の建物が霧のため視界に入らない。実際、宿は目と鼻の先にあったのだが、濃霧で見えなかったために、見過ごして先へ進んでしまったわけだった。正午前だったので、第三駐車場に車をとめて、途中のコンビニで買った握り飯を車の中で食べる。霧が晴れ始め、気温が上昇し始めた。この日は早朝に起き、家を早くに出たので、車の中で一時間ほど汗をかきながら午睡をとる。この場所には、以前何回か、この周辺に来たときに立ち寄ったが、プラトーまでの急で曲がりくねった細い山道の記憶はあるが、鳥については、ほとんど印象がない。

汗びっしょりで目覚めると、天候はすっかり回復し、近くをカッコウが飛びすぎ、高い木のでっぺんにとまりカッコウ カッコウと尾を振りながらしばらく鳴いてくれた。オオタカが飛び去る。駐車場の眼下の藪でクロツグミが複雑な鳴き方でさえずり始めたが、姿は見る事ができなかった。ウグイスとキジの数も多い。近くの第二駐車場の裏山から、複雑な声量のあるさえずりが聞こえてきたので、車をそこへ移動し、山に登り声の主を追ったが、近くまで行ったが結局姿は見えず、その鳥が何であったかわからない。凶鑑の声からすると、ノジコの可能性もある。モズも飛ぶ。天気が回復したので鳥たちも活動を始めたらしい。ツツドリの声も遠くから聞こえてくる。宿の裏側の宿泊客専用の駐車場に車をおき、この日の集合時間にはまだ十分時間があるので、宿の人に、周辺の道と状況を聞き、ハイキングコースの地図をもらった。地図によると、この広い牧場には、いくつものハイキングコースが設定されていたが、宿の人のすすめもあり、宿から道沿いに6kmの周遊「瘡松山コース」を歩くことにした。この日の我々の宿泊する仲間は5名だそうだ。

宿を出て、左手に新しく建設された風力発電機を見ながら、反時計回りで広く舗装された道路を歩いて下り始める。道の両側の藪では、鳥たちがにぎやかになっている。キジの が、ゆったりと道路を横切って行く。しばらく下り続けると、広い道路から、つり堀への案内板ある狭い道路へと左折した。この道の左側には小川が流れ、各所でミソサザイのさえずりが何回も聞かれた。この道沿いには6名のオジサンたちが、100mほどの間隔で座り込み、なにやら無線電話で連絡を取り合っている。そのうちの一人が銃砲を持っているのに気づいた。はじめは、釣仲間かと思ったが、最後の人が私に挨拶をしたので、何をしているか聞くと、彼らは猟友会の会員で、市の委託で、イノシシの駆除に来ているのだそうだ。この朝、花貫ダム上流の山中の笹藪を一人で山中を歩いているときに、熊が出るのではないかと想像したが、ここでも私は一人きりで歩いているので、イノシシに会うかと聞くと、出るかもしれないので、気をつけるようにいわれた。つり堀を過ぎて、午前中に車で上ってきた道に出て、ゆるい上り坂を歩く。しばらく行くと、車では気づかなかったが、上り坂が急になり、汗が急に噴出すようにでてきた。急坂を1kmほど汗をかきながら苦労して歩いていると、鳥はどうやらそっちのけになってくる。宿近くで大粒の雨がポチポチと降ってきた。宿の建物がすぐそばに見えてきたが、自分のいる場所との高度差がまだまだとても大きい。やっとの思いで宿に帰着し、汗でだいぶ水分を失っていたので、ビール飲みでない私が、食堂で「ビールをください」。

ビールを味わっているうちに、この日のリーダーの一人、0君が到着し、1さん夫妻も到着した。1さん夫妻は、東京都世田谷区の住人で、昨年八溝山一泊探鳥会でもご一緒している。この日は、ここに来る前に、この場所よりさらに北になる花園溪谷まで足を伸ばしてきたそうだ。もう一人のリーダー池野支部長は集合時間よりやや遅れて到着予定と聞く。

池野支部長が大雷雨のなか到着し、夕食前、私たちの部屋でのカクテルタイムを過ごす。1さん持参の鹿児島島の焼酎と、わたしのバーボンウイスキーをしこたま飲んで、夕食の宴会場に行く。(この日の夕食の内容の記憶を私は失っている) 食後も、部屋に戻って、さらに飲んだようだが、早い時間に就寝したことは間違いない。

翌朝、誰ともなく午前4時前に起き上がり、まだ明けやらぬ気温10度の外へ早朝探鳥に出かける。着込んではいれるものの、とても寒い。天気は快晴のようで、早朝の光線は十分ではないが、見晴らしもよい。前日私が歩いた同じコースを巡ることにしたが、最後の上り坂がきついことと、このコースに沿って車をとめる場所が多くあるので、0君の車に池野さんと、1さん夫妻が私の車に分乗して出発し、車をとめた場所の周辺を歩き回ることにする。気温が低いものの、進行中、鳥の声を聞き漏らすまいと、暖房をつけて、窓をやや開けて走る。池野さんは、この辺での鳥の調査に足を運んでいるせいか、この地の鳥のポイントに詳しく、第二と第三駐車場付近を歩き、坂を下りながら、車を何回かとめて、鳥を追う。藪の中からアオジのさえずりが聞こえたそうだが、私はその声に慣れていないので、聞き漏らしてしまった。山が開けた場所では、上空に残る半月の位置に近いとことでノスリというタカがホバ

リング（羽を羽ばたきながら一点にとまって餌を探す行動）している光景は珍しく、強く印象に残った。タカは気温が上がり上昇気流が上り始める午前 10 時ごろから気流ののって上昇し、餌取りを始めるだろうと思っていたが、池野さんによると、ここは広い牧場で、餌となる野鼠が多く、この季節、子育てに忙しいので、こんな早朝から、行動を開始するのだそうだ。この二日間、多数のノスリを見て、その多くは二羽で行動していたので、 のつがいであろうと想像する。先へ進んで、車をとめて、今度は杉林の中の藪を山登りする。鞍部の反対側は落葉樹林になっていて、タカの巣を探したが、見当たらなかった。カケスが鳴いて飛んだ。

広い道路に戻ると、道路上で二羽のキセキレイが遊んでいる。 が に求愛給餌をしているのかと思ったら、なんと が尾羽を高く上げて に交尾を誘っている行動を繰り返すではないか。多分、私たちが山から下ってくる前に、 は からの求愛給餌に満足しての結果だったのだろうか。車を、その道路に残して、つり堀への道を歩くことにした。左手の藪でアカゲラが鳴く。せせらぎがあるせいか、両側の藪では、鳥たちが活発に動いているが、新緑の葉が大きくなりすぎたせいもあり、姿を見つけるのは容易ではない。ミソサザイが何羽もさえずるのが聞こえるが、やっと一羽が川のそばの低い木の横枝にとまり、尾羽をピンと立てて一生懸命にさえずっているのを見つけた。この個体は、よく見かける明るい茶色の羽というよりも、やや紫がかった色をしていた。せせらぎの反対側でさえずる別の個体とさえずり合いながら領地争いをしているのだろう。つり堀まで歩いて、運転手の 0 君と私は車を取りに、同じ道に戻った。車でつり堀まで戻ると、残っていた三人は、小さいダムに向こう側でオシドリのつがいを見たそうだ。池野さんは、その先に、ゴジュウカラが現れるポイントがあると我々を誘ったので、車でそこへ向かう。ゴジュウカラには出会わなかったが、巢立ったばかりらしい幼鳥 3-4 羽を連れたコゲラの家族をじっくりと観察する。牧場の斜面をキジの が相棒を探すように横切るのがよく見えた。時々、羽を打ちふるわせて、ケーン ケーンと鳴く。この付近では、山菜の若芽を取りに、何人かの人たちがいるのに出会う。

前日、汗をかきかき苦労して昇った宿へ戻る道は、車だとスイスイと楽に進めるのがおかしいようだ。7時過ぎに宿に戻った。車で出かけた割には、この朝も結構よく歩き、私たちは、その成果に満足した。

当日の参加者は、ここに 9 時集合なので、24 時間入れる温泉（沸かしているそうだ）にゆっくり入り、朝食をとり、9 時前に出発準備を完了して、車を集合場所の第一駐車場に移動する。この日の参加者は 10 数人で、合計 20 人余が集まった。池野支部長と 0 リーダーの挨拶と参加者の自己紹介などの後、ここを出発し、山を下り野外活動センターの駐車場に車をおき、下根小屋林道コースを歩くのが、この日の予定だ。宿からすぐ下がった場所で、先頭の車が止まり、参加者が車を降りていく。アカハラがさえずり、姿が見える。野外活動センターに車をとめて、今しがた下ってきた道を歩いて戻る。山が開けた場所で、山の稜線に立つ木にノスリが止まった。反対側の開けた牧草地の上をカッコウが飛び、立ち木のなかに止まり、さらに右方向に移動していく。牛舎の近くには、おこぼれの餌をついばむためにスズメやキジバトが集まっている。つり堀を過ぎてすぐ、林道コースへの入り口があり、その反対側のダムで、この朝オシドリを見たことを聞くと何人かが、ダムへ向かったが、この時間にはいなかったようだ。林道の左側の小川には、カワガラス、周辺には、オオルリとサンコウチョウがいると池野さんが説明した。この日は、カワガラスには出会わなかったが、オオルリとサンコウチョウがそれぞれ一声ずつ鳴いたものの、姿を見ることができない。林道を進んでいるうちに、新しいイノシシの足跡を発見する。ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、アオゲラなども見たり聞いたりする。私は、同じように鳴く、アカゲラとアオゲラの声だけでは識別できないが、池野さんによると、アカゲラのほうが、短く鋭い声で、アオゲラは、ややゆったりとした太い声だそうだ。私も、まだまだ修行に励まねばならない。開けた牧草地に出て、その先を野外活動センターの表示板を左へ曲がり、ゆるい山の道を登る。正午近い時間になり、気温もだいぶ上がり、上り坂のせいもあり、汗が噴出してくる。この二日間、

カメラを担いで合計して長い距離をよく歩いたものだ。しかし、写真は一枚も撮らなかった。野外活動センターへ戻り、ここで鳥合わせをする。池野さんの説明によると、茨城県で高度800m以上の山は、筑波山、この里美牧場、花園渓谷と昨年行った八溝山で、これらの山では、この季節、渡り鳥が繁殖のため到着し、鳥見の一番よい時期だそうだ。私も、この場所の価値を、以前のあまり鳥がない記憶と今回のよく歩いた探鳥会で、再評価することになる。

解散後、池野さん夫妻と私は、国道349号線沿いにある旧里美村の農協物産センターでそばを食べることにした。急で曲がりくねった山道を下り、国道に出て、センターはしばらく走った国道の左手にある。1時をまわっていたが結構大勢の人で混雑していて、私は、ザルソバの大盛りを注文し、うまかった。ただ、この二日間よく歩いたので、疲労度が激しいので、帰路一人で運転しているうちに、眠くなることを心配しなければならない。食後、他の人たちと別れて、私は、このセンターで土地産の野菜とサシミコンニャクを買い求めた。交通量の少ない国道349号線を一路南下し、常磐道那珂に入り、柏であり、5時過ぎに帰宅した。

## 鳥 だ よ り

- |  |  |
|--|--|
| 05.06 [中原ふれあい防災公園] サンショウクイ<br>(1) 6:50、鳴きながら通過した 飯泉仁                   | 05.21 [布瀬] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄                              |
| 05.16 [東中新宿] 朴(1) 21:03 頃、<br>自宅上空を鳴きながら通過した 飯泉仁                       | 05.21 [布瀬] 牝(1) 斜面林に<br>志賀鉄雄                         |
| 05.18 [北新田] カ(7) 越流堤付近で、<br>アテナ上で1組交尾 中野久夫                             | 05.22 [手賀] 牝(1) 低木より高木の天<br>辺に止まる 志賀鉄雄               |
| 05.18 [北新田] 朴(1) 河川敷で鳴き<br>声 中野久夫                                      | 05.22 [柳戸] 牝(2) 囀り 志賀鉄雄                              |
| 05.18 [北新田] コ(1) 越流堤横アテナで<br>囀り 中野久夫                                   | 05.22 [若白毛] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄                             |
| 05.18 [つくし野] 朴(1) 鳴きながら<br>飛翔 中野久夫                                     | 05.23 [泉] カ(1) 斜面林際水田に。水<br>浴び後枝に飛び乗り3度田に降りる<br>志賀鉄雄 |
| 05.20 [つくしが丘2丁目] ム(4)<br>9:20 すぎ人家の戸袋に営巣。親鳥が蜘蛛<br>をくわえて帰還し雛に与えていた 飯泉仁  | 05.23 [若白毛] 朴(1) 声 志賀鉄雄                              |
| 05.20 [東中新宿] シ(2) 10:00 頃、<br>親鳥・幼鳥各1羽。親からもらった蜘蛛<br>を口にくわえて電線に止まった 飯泉仁 | 05.23 [中峠利根川ゆうゆう公園] コ(1)<br>(1) 草原で鳴き声 中野久夫          |
| 05.21 [泉] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄   | 05.24 [手賀] 朴(1) 声 志賀鉄雄                               |
| 05.21 [泉] 牝(1) 谷津田際電柱に止ま<br>る 志賀鉄雄                                     | 05.24 [手賀] 材(1) 立枯れ木に<br>志賀鉄雄                        |
| 05.21 [片山] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄  | 05.24 [藤ヶ谷] 朴(1) 声 志賀鉄雄                              |
| 05.21 [金山] 朴(1) 声 志賀鉄雄   | 05.24 [藤ヶ谷] 牝(2) 囀り(2箇所)<br>志賀鉄雄                     |
| 05.21 [手賀] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄  | 05.24 [北新田] コ(5) 越流堤で<br>中野久夫・金成典知                   |
| 05.21 [手賀] 材(1) 囀り 志賀鉄雄  | 05.25 [染井入新田] コ(1) 飛翔<br>志賀鉄雄                        |
| 05.21 [手賀新田] チ(1) 採餌<br>志賀鉄雄   | 05.25 [柳戸] 材(1) 立枯れ木に<br>志賀鉄雄                        |
|  | 05.25 [若白毛] 牝(1) 電柱に止まる<br>志賀鉄雄                      |
|  | 05.25 [北新田] 牝(1) 物色飛翔                                |

- 05.25 [北新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 中野久夫  
飛立ち 電柱から 志賀鉄雄
- 05.25 [高野山] ㇿㇿㇿ(2) 中野久夫  
平岡考
- 05.25 [柏イトーヨーカ堂柏店] ㇿㇿㇿㇿㇿ  
ㇿ(2) 成鳥 1、幼鳥 1羽 飯泉久美子
- 05.26 [柳戸] ㇿㇿㇿㇿ(1) 鳴きながら飛ぶ  
志賀鉄雄
- 05.26 [鷺野谷] ㇿㇿㇿㇿ(1) 声  
志賀鉄雄
- 05.27 [東我孫子] ㇿㇿㇿㇿ(1) ( 轉り )  
小林さやか
- 05.27 [中峠利根川ゆうゆう公園] ㇿㇿㇿㇿ  
(1) 利根川上飛翔 中野久夫
- 05.28 [五条谷] ㇿㇿㇿ(1) 飛翔 志賀鉄雄
- 05.28 [東中新宿] ㇿㇿㇿㇿ(1) 成鳥が餌を  
くわえて人家の軒先の営巣場所に入って  
いった 飯泉仁
- 05.29 [湖北台7丁目] ㇿㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 捕  
食行動 赤尾完
- 05.29 [高野山] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) ( 轉り )  
小林さやか
- 05.29 [若白毛] ㇿㇿㇿ(2) 飛翔 志賀鉄雄
- 05.29 [鷺野谷] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 斜面林で鳴き  
声 中野久夫
- 05.30 [湖北台4丁目] ㇿㇿㇿㇿ(1) 梢で鳴く  
赤尾完
- 05.30 [湖北台4丁目] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 鳴いて  
飛翔 赤尾完
- 05.30 [泉村新田] ㇿㇿㇿㇿ(1) 電線上で物色  
志賀鉄雄
- 05.30 [金山] ㇿㇿㇿㇿ(1) 轉り 志賀鉄雄
- 05.30 [柳戸] ㇿㇿㇿㇿ(1) カラス2羽に追われ  
斜面林へ 志賀鉄雄
- 05.30 [布施新町3丁目~4丁目] ㇿㇿㇿㇿㇿ  
(1) 鳴き声 西巻実
- 06.01 [大津ヶ丘1丁目] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声  
志賀鉄雄
- 06.01 [片山] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.01 [布瀬新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(5) 採餌  
志賀鉄雄
- 06.02 [泉] ㇿㇿㇿㇿㇿ(2) 斜面林で  
中野久夫
- 06.03 [泉] ㇿㇿㇿㇿ(1) 木の天辺に止まるも  
飛去 志賀鉄雄
- 06.03 [藤ヶ谷] ㇿㇿㇿㇿㇿ(2) 水田上を鳴き  
ながら飛ぶ 志賀鉄雄
- 06.04 [手賀新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(3) 谷津田で採  
餌 志賀鉄雄
- 06.04 [岩井新田先の手賀沼] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1)  
葦原の中で囀る 飯泉仁・久美子
- 06.04 [手賀沼] ㇿㇿㇿㇿ(3) うち2羽はペア  
で交互に水田の畔で抱卵 飯泉仁・久美子
- 06.04 [泉村新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1)  
飯泉仁・久美子
- 06.05 [若白毛] ㇿㇿㇿㇿ(1) 声、35分くら  
いの間良く鳴く 志賀鉄雄
- 06.05 [岡発戸] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声  
首藤美恵子
- 06.05 [久寺家] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 斜面林で鳴き  
声 中野久夫・金成典知
- 06.06 [岡発戸] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声 首藤美恵子
- 06.07 [金山] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.07 [手賀沼] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 下沼、飛翔  
志賀鉄雄
- 06.07 [藤ヶ谷新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(2) 林道上横枝  
に 志賀鉄雄
- 06.07 [藤ヶ谷新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 轉り  
志賀鉄雄
- 06.07 [名戸ヶ谷] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 11:20東武バ  
ス名戸ヶ谷車庫内に降り立つ 飯泉仁
- 06.07 [名戸ヶ谷] ㇿㇿㇿㇿㇿ(2) 11:20東武バ  
ス車庫の事務所軒下に営巣 飯泉仁
- 06.08 [片山新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(2) 物色飛翔  
大久保陸夫
- 06.08 [片山新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 物色飛翔  
大久保陸夫
- 06.08 [片山] ㇿㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 畑の上を飛び  
斜面林へ 志賀鉄雄
- 06.09 [岡発戸] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声  
首藤佑吉・美恵子
- 06.10 [大井新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 葦原飛翔  
桑森亮
- 06.10 [片山] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 飛翔 桑森亮
- 06.11 [手賀] ㇿㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.11 [布瀬] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 声 志賀鉄雄
- 06.12 [北新田] ㇿㇿㇿㇿㇿ(1) 2号排水路で  
中野久夫
- 06.12 [片山] ㇿㇿㇿ(1) 水田上空を旋回  
飯泉仁・久美子
- 06.12 [片山] ㇿㇿㇿㇿ(4) 谷津田上空を旋回、  
時折鳴き声が観察、1羽は風切羽がボロボ  
ロの個体、2羽は幼鳥 飯泉仁・久美子
- 06.12 [片山] ㇿㇿㇿㇿㇿ(2) 10:39(1)、



## 手賀沼のオオバンは、今

間野 吉幸

「最近、手賀沼の水鳥が少なくなったね」との声が良く聞かれる。印旛沼の水鳥も最近私が見た範囲では非常に少ない。そのような時、昨年（2005年11月）日本野鳥の会東京支部が開いた第1回とうきょうカモ・シンポジウムに参加した。「東京のカモはなぜ減ったのか」と題し東京のカモ・今昔の基調講演の後、不忍池、荒川下流、野川全流、東京都心部における基調報告がされた。何れの地点においてもカモが減少しているとの報告であった。またシンポジウムに参加した埼玉、千葉、茨城のメンバーの中からもカモが減少しているとの発言が続いた。カモの減少は首都圏全域に広がっているのかもしれない。

私の属する我孫子野鳥を守る会（以下当会）は1977年1月より手賀沼での水鳥の定点観測（南岸、上沼3ヶ所、下沼3ヶ所）を毎月欠かさず29年間続けている。その調査データより水鳥の数を通して何が見えるか考えて見たい。

手賀沼の水鳥を考える時、手賀沼とその周辺の環境を抜きには考えられない。我孫子市環境年表によると1964年のCODは4~7mg/lであった。1957年から開始された手賀沼の干拓事業は1968年に竣工した。一方手賀沼周辺の都市化も進み1968年には大堀川のCODが約30mg/lになったと報告している。手賀沼中央地点における年平均CODは1972年は10mg/lであったが、翌年の1973年には23mg/lに跳ね上がり、アオコが異常発生した。翌1973年朝日新聞は27種あった沼の水生植物がガマ・ヨシ・マコモだけになったと報じた。また当会が調査を開始した1977年は千葉日報がカモの飛来激減と報じていた。

一方、手賀沼の汚染の進行に対し、国、県、関係市町は1972年より種々の水質浄化対策を打って来て、今日に至っている。このような背景のもとに、当会が調査した手賀沼の水鳥の個体数をもとに水鳥のおかれていた状態を述べたい。ここで述べる年総個体数は毎月一回カウントした数の一年間の総和で、一回に見ることが出来た数ではない。

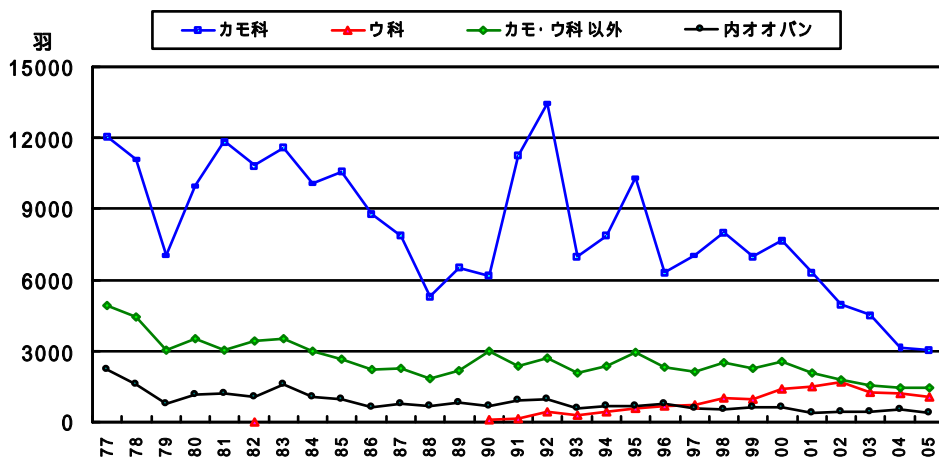
スタートとなる1977年は千葉日報がカモの飛来激減と報じた年で、当会の29年間の調査で最も多かった年であった。その年の年総個体数は16,999羽であったが1988年には7,130羽（58%）になった。その後1992年には16,565羽まで戻したがそれ以降増減を繰り返しながら減少傾向にある。2001年以降は一貫して減り続けており2004年は遂に個体数6,000羽を切ってしまった。2005年は5,533羽と1977年に対し1/3の水準まで落ち込んでしまった。非常に深刻で憂うべき状態にある。これを1977年と2005年対比でカモ科とカモ科以外で見ると、カモ科は12,057羽が3,017羽の75%減、カモ科以外は4,942羽が2,516羽の49%減であった。1977年当時は手賀沼ではウ科の記録はなかったが、1990年以降観察され増加していった。カモ科以外はウ科を除いてみると様相は一変する。4,942羽が1,453羽に、71%の減少である。同じようにオオバンを見ると2,218羽が386羽（83%）に減少した。手賀沼の水が綺麗だった頃、手賀沼は、鳥仲間では冬場オオバンのメッカと言われていたが、現状は目を覆う状態である。水草の葉や茎、昆虫や貝などを食べるオオバンは、現在は人の集まる所（定点観測では見えない所）に集まって餌をねだる行動をしているのを見ると考えさせられる。また冬季の越冬個体数、繁殖期の個体数が大幅に減少しておりオオバンが我孫子市の鳥と言えなくなる危機的状況にある。

手賀沼のCODは改善しアオコの嫌な臭いから開放され綺麗になりつつあるが、沼の豊さが回復していないように思える。手賀沼のオオバンやその他水鳥の減少を食い止める為に(1)水鳥が安心して休息できる環境作り（静寂、隠れ場）(2)水中植物再生、復活、(3)餌場となる環境作り等幅広い取り組みと活動が今後求められる。

参考文献：我孫子市環境年報（2004年度版）、北千葉導水運用状況（2004）、ほーほーどり No.184（2005）、手賀沼の鳥（2004）、三省堂世界鳥名事典（2005）

（本稿は手賀沼学会 ニュースレターNo5へ掲載されたものです）

1977年から2005年の間の29年間に記録された  
水鳥の年総個体数の推移



### 手賀沼流域フォーラム

10月7日(土)親水広場で開催の第10回「手賀沼流域フォーラム」(主催:美しい手賀沼を愛する市民の連合会、山階鳥類研究所、手賀沼浄化事業連絡会、我孫子市、柏市)に当会は昨年に続いて参加します。今回は先の手賀沼学会で発表した内容と同じで、当会が7年間行っている「手賀沼ビオトープ」の鳥類調査に基づくパネル展示を行います。

(事務局 榎本右)

### 9月幹事会

日時 9月10日(日)13:00~

場所 我孫子市民会館 第4,5会議室

議題

1. JBFの行事の確認、その他検討事項
2. 会報193号掲載記事について
3. 報告事項
4. その他(議題を提出する場合は事務局にご連絡ください)

(事務局 染谷迪夫)

### 我孫子野鳥を守る会 会報 No192 2006年(9~10月号)

発行 2006年9月1日

発行人 間野吉幸 我孫子野鳥を守る会 会長

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270-1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04-7182-3972

振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生、高校生 1,000円、中学生以下 500円、  
家族会員 無料)